

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町環境保全型農業推進協議会補助			基本目標	環境保全型農業の推進		
担当課(局)・係	産業振興課	産業企画係	記入者	濱本 生代	評価者	田中 義基	開始年度 H11 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	高鍋町の農業											
	意図・目的	高鍋町農業の安定的かつ長期的な振興と農村環境保全及び消費者に信頼される農産物の生産を図る。											
事業の内容	環境保全型農業に取り組む生産者組織や実践地区の支援、活動推進												
23年度決算額		236	千円	24年度予算額		243	千円	事業従事者数	H23 0.10	人	H24 0.10	人	
主な支出項目	補助金	236	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	23年度人件費	714			千円	
			千円		県支出金		千円	24年度人件費	714			千円	
			千円		地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0	%		
			千円		一般財源	243	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
			千円				千円						
町の補助事業	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名		高鍋町環境保全型農業推進協議会補助金							
	補助交付団体			補助金要綱		高鍋町環境保全型農業推進協議会補助金交付要綱							
	23年度	補助額	236	千円	補助の形態	奨励的補助	H24年度補助額	243	千円	終期	25	年度	
		団体の決算額	236	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		補助の割合	100.00	%	高鍋地域有機農法実践協議会との統合を検討すること。								
繰越額		0	千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか	
	1 環境保全型農業実践組織数	環境保全と生産性の調和を図りながら、環境に優しい持続可能な農業を推進することができた。	
	2		
	3		
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に	
	1 残留農薬検査	農産物の残留農薬検査を行い、環境保全型農業に取り組む生産者組織の活動を推進した。	
	2 PRイベント打ち合わせ	PRイベントの開催について協議を行い、環境保全型農業をPRすることができた。	
	3		

◎達成状況

	指標名	単位	22年度	23年度	24年度
			目標値		
成果指標	環境保全型農業実践組織数	団体	4	4	
		実績値	4	4	
		達成率	100.0%	100.0%	
		目標値			
		実績値			
		達成率	%		
活動指標	残留農薬検査	検体	15	15	15
		実績値	15	18	
		達成率	100.0%	120.0%	
	PRイベント打ち合わせ	回	5	5	5
		実績値	5	5	
		達成率	100.0%	100.0%	
		目標値			
		実績値			
		達成率	%		

事務事業名	高鍋町環境保全型農業推進協議会補助	担当課(局)	産業振興課
-------	-------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数 自己 評価
(必要性)	高鍋町環境保全型農業推進条例に、環境保全型農業の円滑な推進は町の任務とされている。安心・安全な農産物への関心は高く、その期待に応えるべく、更なる事業の推進が必要である。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有効性	新たに緑肥効果のある作物の作付に取り組む組織ができており、緑肥効果とともに景観形成作物を利用したイベントを開催し、環境保全型農業のPRにつなげる活動を支援した。	◎目標に対して成果は得られているか	2
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効率性	環境保全型農業の推進について、広く意見を聴取することができている。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2
		◎費用対効果が十分に認められるか	2
協働性	消費者に環境保全型農業をPRする活動には協働の余地がある。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1
合計(最高18点)			16

※町補助をしている場合のみ記入

(公平性)	環境に優しく持続可能な農業の推進は、農家だけでなく住民すべての利益となる。	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1
		◎町民の理解が得られる事業であるか	1
合計(最高4点)			4
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	事業の一環として、緑肥効果のある作物の作付に取り組む組織が結成されており、継続が必要。次年度には高鍋地域有機農法実践協議会との統合を検討すべき。	今後の方向性																											
			事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充					維持			○		縮小					廃止					<table border="1"> <tr> <td>廃止</td> <td>縮小</td> <td>維持</td> <td>拡充</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">コスト</td> </tr> </table>	廃止	縮小	維持	拡充	コスト
拡充																														
維持			○																											
縮小																														
廃止																														
廃止	縮小	維持	拡充																											
コスト																														

◎事務事業評価委員の意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全に取り組むために必要と考えるが、内容の分析をして行くべきである。 ・土壌改良を目的にヒマワリを緑肥として補助金を3年間支出してきたが、継続した場合の土壌成分への影響や、本来の土壌改良効果についての考察が必要である。 ・好評を得ているヒマワリ迷路イベントを継続するのか、農家の育成の両立をどう図っていくのか、環境保全型農業推進協議会の位置付けはどうなるのか考える必要がある。 	◎今後の方向性
	事務事業評価委員会
	判定: 維持
	外部評価委員会
	判定: